

奈良・人と自然の会

11月度第6回幹事会報告

日時 11月1日 18:00~21:00

場所 奈良県社会福祉総合センター

出席 川井、有本、弓場、小山、豊島、谷口、樋口（欠席）大寺、野田、寺田、勝田

議事 1. 会員動向 入会 家族会員1名 退会 ①名 総会員69名

2. 行事報告

第2回東海自然歩道・歩こう会 参加者 21名 奈良県在住者の参加が7名と少なかった
10月例会 大台ヶ原 参加者 10名

3. 検討事項

西大和中学、高校から出前教室依頼の件（シニア自然大学からの紹介）
受ける前提で、2~3案を検討し、先方に打診する。

4. 決定事項 新春講演会の件

日時 1月18日（土）10:00~12:00

場所 奈良県文化会館

講師 河合正人（奈良県環境アドバイザー） テーマ 昆虫

5. その他 ①編集の件、スタッフの増員ができればいいが難しい現状のため、原稿の送付などで工夫し、みんなで協力をする。

②次回幹事会 12月6日（金）18:00、奈良文化会館 2階F室

文責、谷口 暁

12月例会のご案内

「冬に入る奈良公園の観察」

今回は昼間第一部として牡鹿の鳴く奈良公園の冬準備をじっくりと観察して回ります。第二部は暮色に包まれた公園に飛翔するムササビを探見します。

[日時] 12月7日（土）AM13:00

[集合] 近鉄奈良駅前、行基菩薩噴水前

[行程] 第一部、近鉄奈良—興福寺—鹿苑—若草山麓—手向山八幡—東大寺鐘楼—南大門、一旦解散
第二部、南大門前集合18:00「むささび」の生態観察、解散19:30頃

[天候] 小雨決行、但し降雨次第で第二部は中止。

[持ち物] ハイキングスタイル、懐中電灯、

担当、樋口 善雄

新春講演会のご案内

川井 秀夫 会長

昨年に引き続き新春講演会を開催いたします。大自然の不可思議さを昆虫を通してユニークな話が聞けるとおもいます。気軽に多数のご出席をお待ちします。

1、日時 平成15年1月18日（土）受付9:00、開演10:00、終了12:00

2、場所 奈良県文化会館 1階第2会議室

3、講師 あやめ池自然博物館 学芸員 河合 正人氏

4、演題 『植物と昆虫の話』

5、会費 無料

6、その他 講演終了後、昼食会を予定しています。御希望の方は受付で申し込み下さい。

東海自然歩道自然観察会のご案内

東海自然歩道・歩こう会の改称と第1・2回の植生調査資料の件

9月に第1回笠置山古道と柳生街道をスタートして、11月は山の辺の道Ⅰまで進みました。さて、当会の東海自然歩道・歩こう会の呼称ではただの「歩く会」のようで、如何なものかとのご提案もあり、新年の第5回山の辺の道Ⅲより呼称を東海自然歩道・自然観察会に改称させていただきますので皆様のご賛同をよろしくお願い申し上げます。なお、第1・2回の植生調査資料を担当の樋口善雄、野田陽子様から提出いただいておりますので会員の皆様にはご活用ください。
(寺田・弓場)

ネイチャーなら 奈良・人と自然の会

第5回 東海自然歩道・自然観察会のご案内

新年を迎え、東海自然歩道の観察会は日本最古の大神神社に初詣のあと、三輪山沿いに三輪から天理に向かって神話のストリート「山の辺の道」Ⅲの自然観察を行います。気楽にご参加ください。

〈コース名〉 ⑤ 山の辺の道Ⅲ [16km]
〈日時〉 1月12日(日) 9時20分 集合
〈集合場所〉 近鉄桜井駅 : 改札口

近鉄ナンバ〔奈良行快速〕8:34発…鶴橋 8:40 乗換・〔青山町行快速〕8:43発…八木9:15…桜井9:19
〈行程〉 JR 三輪駅～大神神社～石上神宮～JR・近鉄天理駅
〈担当〉 有本倍美 寺田正博 弓場厚次

飛鳥の素顔を見た？

小田久美子

いくたびか「あすか」を歩いていますが、今回は飛鳥川源流に行くという。どんな「あすか」に出会えるのかワクワク出掛けました。この季節は行く先々で大勢の人達と袖触れ合う筈なのに、歩き出してすぐ「てくてくまっぷ」にない田舎道に入りこみ、宇須多岐比売命神社、加夜奈留美命神社へと向かうと、いつしかわたしたち九人だけが歩いていてとても不思議な気分でした。「杉が植林される前は、いまの季節は美しい風景『山粧う』があった筈、この山の、この谷の、姿をよく見てください。と有本さんが話されました。そういう風に話しかけられたのは始めてでした。違った角度からの「あすか」を見ることになりました。

朝風峠(上平田峠)を越えると、前方に南淵山その下に稲淵の集落を見下ろす大変見晴らしのよい場所に出て、しばし一同の足が止まりました。眼下ではオーナー制棚田の稲刈り日で、家族づれの明るい声がこだまして、かつての農村風景を連想させましたが、オーナーさんたちの車が道路脇に連なっているのがやはり『現在』でした。飛鳥川を遡り稲淵川と名を変えた川筋をさらに進みます。いよいよ今日の最終目標の『女淵』に着きました。遠いむかし、皇極天皇が雨乞いをされ、めでたく雨に恵まれたというお話でした。近くでは、この風景を護るためこの地栢森在住の嶋村さんが、田の手入れをなさっているのが見えました。

天武天皇が南淵山の樹木を切ることを禁じ、山林の保護を命じられた話を聞いて、その頃から自然環境の大切さを認識されていたはずなのに……。源流のこの先へは次回ということで帰路に着き、数時間のタイムスリップの旅は終わりました。

秋行脚に思う

川井 秀夫

今年は、残暑が終わると、程なく断続的な寒波が襲来して、自然の営みにも無言の驚きと悲鳴が聞こえる様な、足早な季節の移ろいを感じます。

私も例年より早めの防寒スタイルで、毎年の事ながら紅葉前線を各地に追っかけて見ました。木曽御嶽、木曽駒ヶ岳の初冠雪の秀麗な姿、丹波路の紅葉、能勢初谷川から妙見山への溪流ウオーク、京都御苑の自然林とそれぞれに心の昂ぶりを覚え、感動の出合いがありました。日本の雑木林のもつ、癒しの自然美でしょうか。

当会の例会行事にも参加し、仲間たちとの共感の中で、私なりの感慨を纏めて見ました。

10. 9日 大台ヶ原 快晴 気温 7°C 寒風が首筋に冷たい。パーク ボラとして活動するシニアの仲間たちと会う。失われつつあるトウヒの原生林更生に、実生から苗木の育成、植林と奉仕活動に取り組む姿に、頭が下がる思いが募る。

日の出岳から正木ガ原へ。ナナカマド、オオイタヤメイゲツが、はやばやと色を染めて、吹く風に秋の序曲を奏でる。山頂近くで、偶然俯瞰する形でカケスの飛翔を見る。カラスの仲間だが、白、青、黒、茶の配色が陽光に透けて実に美しい。コゲラが逃げもせず、目前で木の虫を啄み、大自然のゆったりした時間が過ぎて行く。

正木ガ原に来て息を呑む。トウヒの立ち枯れが想像を越えて凄まじい。丸で一瞬の放射能で破壊された様な、地獄絵図に近い光景を見る。

識者は鹿害として、毎年50頭の鹿を駆除すると言う。ある学者は自動車の排気ガスとも言う。果たしてそうか。私には国境を越えてやって来る酸性雨(SOX)の汚染も複合要因としてあるのではないか思えてならない。車の入山制限、鹿の隔離 保護エリアの設置等々 新対策を頭に描きながらも、少し虚しさの残る一日であった。

11.10日 飛鳥川源流を訪ねる。晴れ 最高気温 15°C

飛鳥駅から飛鳥川を遡上。十キロの道程を朝風峠から稲淵の集落を経て、水源近く女滝まで。今日のポイントの一つは飛鳥の景観。高松塚、朝風峠から望見する大和平野のたたずまい、古代飛鳥人の生活をイメージしながら、ロマンを追う。

源流の山あいには極めて暗い。かって谷の傾斜面には棚田が広がり、照葉樹林があったという。戦後、国策により針葉樹林に化けて、昼なほ暗い不毛の様相を現出している。

源流復元にはボラ団体が活動されており、当会のメンバーである有本 倍美氏 豊島すみ子氏が参画され、今後のご健闘を祈るや切である。

閑話休題

飛鳥駅前のケヤキに注目。三本並ぶ成木の一本が紅葉、二本が黄葉と異色の対照はそれなりに美しい。私のイメージではケヤキは褐色に近い鈍い紅色ではなかったか。識者は言う、黄色は紅色に変わるプロセスだと。一人は日照、気温、土壌の違いから起こるんだと。同じ場所にありながら納得ができない。

数日後、万博のケヤキの丘の説明板に解説があり納得したが、来年飛鳥のケヤキ君がどんな顔色をするのか楽しみである。(紙数が尽きた。正解は来年まで私の秘密)

見る、視る、観る

有本倍美

自然観察は、蟻の目で見ると、また鳥の目で見ると。ミクロとマクロ、ルーペの世界と景観の世界と学んだ。このところ特に景観に興味がある、飛鳥に朝風峠と言うところがある。檜隈の地から稲淵の集落に通じる峠で、この頂上付近からの眺めは時期それぞれ実に感慨深く、空間や時間を認識することが出来る。

西側に連なっている金剛山、葛城山、二上山、信貴山、生駒山、この間、水越峠、竹の内峠、穴虫峠、暗峠とそれぞれの間に浪速と大和をつなぐ幹線道路がある。東方は多武峯を背景に坂田、稲淵と弥生時代を思わせる棚田が延々とあり、目前に飛鳥川、南淵山に沿って太古の人々が吉野へ通った芋峠に通じる道がある。

峠に座って眺めていると自分があたかも太古の歴史上にいるような気分だ。人々は水越峠を往来し、遠稲架に畦火がたなびき、山々は紅葉でまるでパッチワークのようだ。人々は自然と親しみ、自然を大切に自然とともに生活しているのがみえる。背暦600年代、約100年の間日本の政治の中心であった飛鳥は、天皇の代ごとに宮を構え、寺社仏閣を競って造営したため、大量の建築資材と瓦を焼く薪炭が必要であった。飛鳥近在の山々は伐採し尽くされ、飛鳥川はしばしば氾濫した。当時の川は生活の全てであり、ひとたび氾濫すると田は崩壊し、疫病が流行し累々たる屍であったと言う、時の天武天皇が伐採禁止令を出したのがわが国最初の環境保護条例であるという。

現在の飛鳥の景観は当時のものと違う。目前のビニールハウスが景観を遮り、田園地帯に住宅がまるで火砕流のように迫っている。杉櫨の植林が、竹藪の繁殖が、薪炭代替燃料が当時の里山風景を変えてしまった。しかし太古の飛鳥の風景を観るのは楽しい。

旅行が好きなのもこの点だろうか。イスタンブール、ボスポラス海峡の歴史を飲み込んだ水、イタリア、トスカーナ地方都市国家の形成物語、南仏エクス・アン・プロバンス近郊、セザンヌがこよなく愛したセント・ヴィクトワール山の朝晩の色と輝き、ゴッホが自殺したパリ近郊オーベール・シュル・オワーズの麦畑風景、ウィーン近郊のハイリゲンシュタット、ベートーベンが散歩し、「田園交響楽」のモチーフとなった小川のほとりの風景、スイスでは、ユングフラウ、メンヒ、アイガー三山に対する畏敬の念、など自然と歴史と文化に対する興味は尽きない。

教育基本法改定の時期、遠山文部科学大臣は「子供は何のために勉強するのか」との質問に、「心豊かな人生を送るために勉強する」と答えられた。これは豊かさの本質を衝いた言葉だと思う。今からでは遅い、もっと早く気付いておけば、がしかしまだまだ好奇心は旺盛であり、食欲に「もの」や「こと」の本質を極めたい。

レイチェル・カーソンの言葉 「センス・オブ・ワンダー」より

知ることは 感じることの 半分も重要でない

編集後記

今年の紅葉は早かったですね。このところ、体調不良のなか滋賀県の湖南アルプスに属する国有林に行ってきました。体調の悪さを上回る爽快さで、相殺され迷惑を掛けず付いていくことができました。

現地では奈良県には分布していない珍しいマルパノ木の群落が見られ、見事な紅葉と不思議な形の花が咲いていました。この辺りは、お馴染みの大戸川や大神山の近くで、ご多聞に漏れず環境問題がひしひしと感じられました。滋賀県南部は杉櫨の植林が少ないので山が明るく、それでいて水分が多く、奈良の感じと違うようです。

ただ、緊縮財政と言いながら山中に広い立派な道路を開発中でした。どうしてこのような山中に道路が必要なのか、可哀相に貴重な植物がブルで掻き揚げられた土の下敷きになっていました。一方で採集禁止のきまりがきれいしく掲げられていました。

さて、今年最後の機関紙です。活動は定着したように見えますが、問題は行事参加の低調さです。皆様のこのことに関する忌憚ない感想をお寄せ下さい。

各部の決定事項や連絡事項は12月20日までに下記までお送りください。

連絡先 有本 倍美

奈良・人と自然の会事務所

会長 川井 秀夫